



大阪 京都

# OK委員会ニュースレター

大阪教区と京都教区の協働及び  
合併に関する検討委員会

第2号

発行日:2013年10月29日

## いま！なぜ？合併！？ アンケート 実施報告

### 「OK委員会ニュースレター」について

2011年の教区会にて「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」が発足し、昨年は中間報告、ニュースレター発行等で両教区の協働合併についての動きを皆様に知っていただく活動を行って参りました。

今年の教区会では検討委員会として最終報告をいたします。検討委員会の活動の中で合併、協働の動きをさらに多くの方々に知っていただき、ご意見をいただきたいと思い、今年の4月より主日の主教巡錫時に、両教区主教から協働・合併についての思いをお話いただき、アンケートを採っていただきました。全ての教会で実施することは出来ませんでした。教会に集う多くの方々のご意見として、今年度教区会の最終報告にも掲載させていただきます。

このニュースレターでは、主にアンケート結果の報告と、その中にあった質問をまとめ、「Q&A」として皆様のご質問、ご意見にお答えしております。

ご覧いただき、協働・合併について教会で皆様の思いを分かち合っていただければ幸いです。

大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会

### アンケートの実施目的、方法

当委員会では、教区の諸委員会のメンバー及び教区会代議員と、それ以外の教会員との間に協働・合併に対する考え、意識の違いがあるのかを把握するため、また、両教区の現状、協働・合併の働きについて認識していただくことを目的として、両教区で主教巡錫時に、主教から合併についての思いを話していただき、それを聞いてのアンケートを実施した。2013年4月から行ったので、その期間内に主教巡錫のなかった教会ではアンケートを採れなかったが、教会信徒のおおむねの意見として分析した。

アンケート実施期間 2013年4月～10月

実施場所 毎週の主教巡錫教会

アンケート回収 大阪：17教会 362人

京都：24教会 231人

#### アンケート質問項目

教会名

☆合併の必要性(該当箇所)に○)

1. やはり必要だ 2. どちらかと言うと必要だ  
3. どちらでもない 4. どちらかと言うと必要ではない  
5. やはり必要ではない

※ お答えになった理由をお聞かせください。

☆協働の意味(該当箇所)に○)

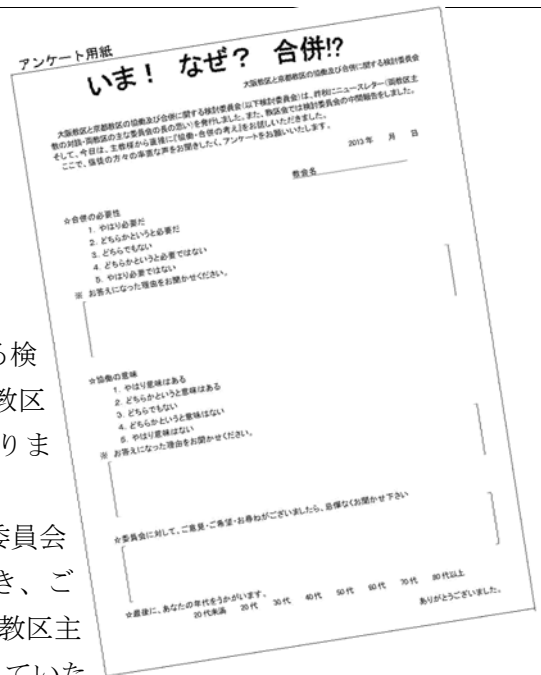
1. やはり意味はある 2. どちらかと言うと意味はある  
3. どちらでもない 4. どちらかと言うと意味はない  
5. やはり意味はない

※ お答えになった理由をお聞かせください。

☆委員会に対して、ご意見・ご希望・お尋ねがございましたら、忌憚なくお聞かせ下さい

☆最後に、あなたの年代をうかがいます。

20代未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上



## 集計結果

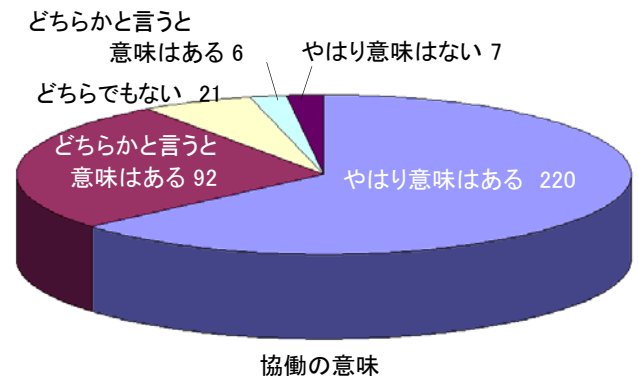
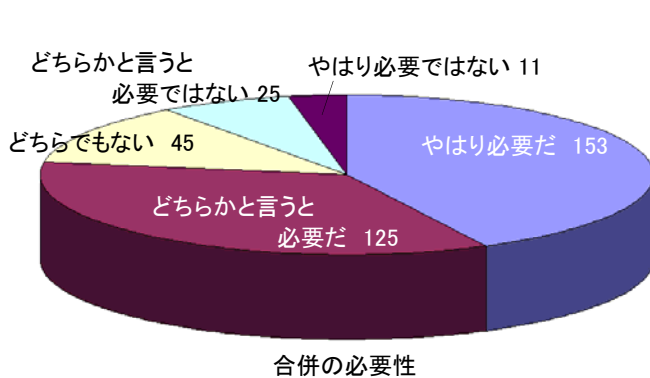
大阪教区 2013年10月11日現在

☆合併の必要性 やはり必要だ153 どちらかと言うと必要だ125 どちらでもない45

どちらかと言うと必要ではない25 やはり必要ではない11 合計359 無記入3 総合計362

☆協働の意味 やはり意味はある220 どちらかと言うと意味はある92 どちらでもない21

どちらかと言うと意味はない6 やはり意味はない7 合計346 無記入16 総合計362



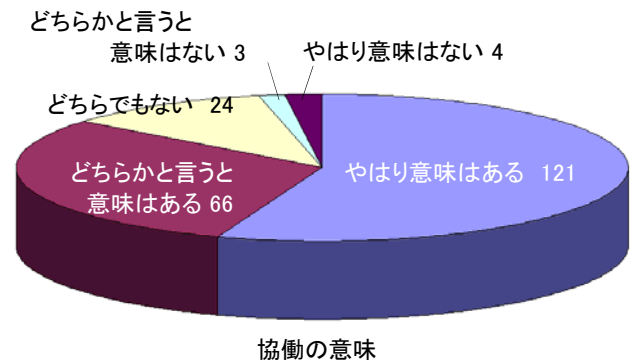
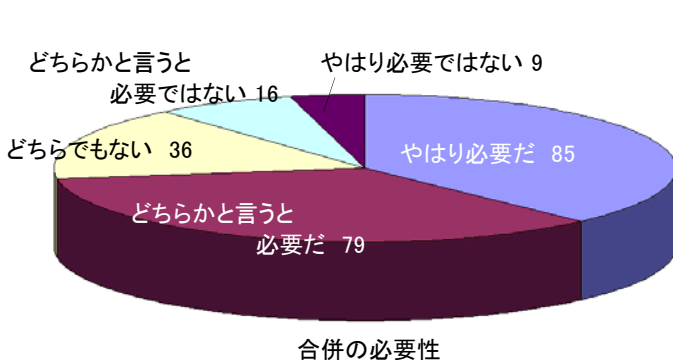
京都教区 2013年9月30日現在

☆合併の必要性 やはり必要だ85 どちらかと言うと必要だ79 どちらでもない36

どちらかと言うと必要ではない16 やはり必要ではない9 合計225 無記入6 総合計231

☆協働の意味 やはり意味はある121 どちらかと言うと意味はある66 どちらでもない24

どちらかと言うと意味はない3 やはり意味はない4 合計218 無記入13 総合計231



## アンケートの回答分析

### ☆合併の必要性について

「やはり必要だ」大阪44%・京都38%

「どちらかと言うと必要だ」大阪34%・京都35%

肯定的な回答の主な理由としては、宣教の活性化、組織のスリム化、適切な人事配置など、中間報告に挙げた合併によるメリットを記載されている回答が多かった。また、それらの回答の前に、現状の宣教への力不足、教勢の衰えには多くの方が危機感を募らせており、現状打破のためにできることは何でも行ってみたい。という意見が多かった。

多くの方が現状を危惧し、将来のための策を執らな

ければいけないと感じている。

また、「教会生活に直接影響を及ぼさない」という理由や、「大阪、京都は元々一つの地方部であった」という歴史的な側面からの賛成意見もあった。

「どちらでもない」大阪12%・京都16%

教区が広がることへの不安は大阪のほうが多く、「具体的なイメージができない」「どちらが良いのかよく分からない」という意見もあった。

また、「メリット、デメリットがよく分からない」「教会生活にどのような変化があるのかが分からない」という意見も多かったが、この意見は合併に肯定的

な回答の中にも見られた。これは、教区合併は普段の教会生活に直接的な変化が及ばない、という理由からであるように思われる。実際、合併したことで普段の教会生活に直接的な変化を迫られるのは教役者と、教務所職員、諸委員会に属している一部信徒のみである。

「どちらかと言うと必要ではない」大阪7%・京都7%

「やはり必要ではない」大阪3%・京都4%

否定的な回答の理由は主に5つに分類される。

- ①現状維持(大阪23%、京都40%)
- ②教会の統廃合、委員会のスリム化等教区内の自助努力が先(大阪28%、京都30%)
- ③給与体系等、財政的な違いも含む教区のカラーの違い(大阪26%、京都10%)
- ④宣教とどう関わりがあるのか(大阪6%、京都10%)
- ⑤その他(大阪17%、京都10%)

・①の現状維持は特に理由は明記されていないので心情的なものとする。

・②の意見だが、教会の統廃合を行うという意見には具体的な教会名を明記されていた方もいたが、回答者が属する教会ではなく、「自分の教会をなくしても教区の存続を」という意見ではなかった。

教会の統廃合も教区合併同様、宣教の活性化、組織の

スリム化、適切な人事配置等の利点は期待できるが、信仰生活を送っている教会が統廃合によりなくなることは、当該教会信徒の信仰生活に直接影響を及ぼすものである。合併をせずにこのまま両教区独自での努力を継続していけば、いずれは教会の統廃合に着手せざるを得ない可能性もある。従って、その前に出来ることを行うべきではないだろうか。

★協働の意味について

「やはり必要だ」大阪63%・京都56%

「どちらかと言うと必要だ」大阪27%・京都30%

合併には否定的ではあるが、協働に関しては「他の教区を知ること」「多様性を感じることができる」等、肯定的な回答が多かった。

「どちらでもない」大阪6%、京都11%

合併についての同意見よりも割合が少なく、協働に関してはより肯定的な回答であった。

「どちらかと言うと必要ではない」大阪2%・京都1%

「やはり必要ではない」大阪2%・京都2%

協働に否定的な意見はごくわずかであったが、「現状維持と距離的な負担からの理由」「合併を断行すべきで経過措置的な協働は必要ない」という理由が大半であった。



## アンケートの回答理由の主なもの

### ★合併の必要性

#### 1. やはり必要だ 2. どちらかと言うと必要だ

当初教区ができた時代に比べ、交通機関も発達しており、教区が広がるのは何の差し支えもないと思われる。また、私たち一人ひとは教会と結びついており、教区の合併が影響を与えるとは思えない。教役者の数、信徒の数を考えれば合併は当然と思われる。(50代 大阪)

適材適所の人事がさらに豊かになることに大きな希望が感じられます。さらに、宣教が活発になると確信

しています。大阪と京都の合併が不可能なら、日本聖公会の未来は暗いものになるのではないのでしょうか。(40代 大阪)

牧師先生、信徒数、若い人が減少している。京都教区と合併したらもっと活気づくと思う。(70代 大阪)  
教役者が減っていくことが分かっているし、これから一人の教役者にかかってくる仕事の多さなどを考えると、必要なのではないかと思う。(40代 大阪)

両教区にとって教会再編を含む合併は意味があると思う。現状のままでは、宣教を行う力が減少する



一方。(30代 大阪)

現在問題となっている現状を打開するには過去にとらわれる必要はない。問題も多々あるであろうが、決心することが必要。(80代 大阪)

現状では1人の牧師にかかる負担が大きく、健康も心配。教会を留守にすることも多く、教会の宣教にかける時間が削られている。(50代 京都)

現状をつぶさに見れば合併不必要との意見にはならないと思います。合併後の教区にどれだけの「夢」を描けるかが大切。夢あるいは希望をお示し願えることを切望します。(70代 京都)

教会が良い方向に向かうため、牧師の先生方が健全に仕事をさせていただくために、将来的に必要なことだと思います。(40代 京都)

信徒、聖職ともに、これから長い目で見ると減少は確実。いずれ破綻してしまう。(30代 京都)

牧師が働きやすいように、少しでも事務的な仕事が減り、牧会活動に専念できるような活動になるなら、合併は必要。(30代 京都)

### 3. どちらでもない

単なる一信徒としては、司祭の居る教会が一つあればいいだけのこと。教区が一つあろうが複数あろうがどうでもいいことである。(60代 大阪)

合併によるメリットとデメリットがきちんと認識出来ないのではどちらか一方に決めることは出来ない。(50代 大阪)

組織のことは、役を持っている方々にお任せします。信徒の場合、自分の教会を大事にしていきたいと思っているからです。(80代 京都)

信徒に直接どのような影響があるのか、分からないため。(20代 京都)

教役者不足は深刻な問題だと思うし、教区を少なくしたほうが良いようにおもう反面、地理的なこと、付属施設のことなどを考えるとどちらともいえない。(60代 京都)

### 4. どちらかと言うと必要ではない

#### 5. やはり必要ではない

必要ではない。京都は京都、大阪は大阪です。(40代 大阪)

京都が広すぎる。(60代 大阪)

合併の必然性がよくわからない。委員会が多すぎ？なら組織を見直せばよい。(60代 大阪)

両教区の財政面(教会の)、給与面の格差が大きく調整が難しいから。(80代 大阪)

教会の特色が違いすぎる。教会の年配の方は、主教さんが来られるのを楽しみにしておられるので、教会が多くなっては来られる回数が少なくなる。副主教とは違う。(50代 京都)

現在では特に必要性は感じない。教役者不足ならば聖餐式の回数が減ってもよいと思う。(70代 京都)

宣教の活性化という目的から考えると、合併の内的必要性がどうしても感じられません。(50代 京都)

### ★協働の意味

1. やはり意味はある 2. どちらかと言うと意味はある  
合併の前提として意味はあるが、出来るだけ早期に踏み切るべき。(70代 大阪)

宣教のための協働は常に必要である。(60代 大阪)

信徒・教役者ともに活性化が期待できる。(60代 大阪)

聖公会らしい多様性を体感できる。(30代 京都)

まずは協働からはじめ、早急に合併への働きを進め

ていくことを熱望。(70代 京都)

ただでさえ絶滅しかけているクリスチャン。一緒に何とかせよになんとする(30代 京都)

何でもみんなで働いたら楽しい、お互いに良いところが引き出せる。(20代 京都)

質問の形式の意味が良く分かりません。協働にも意味はあると思いますが、合併まで行かないと成果は大きく得られないと思います。(70代 京都)

### 3. どちらでもない

協働に意味があるとかないとか言うものではない。同じ目的に向かう者なら、無条件にでも協働するのが自然である。(60代 大阪)

年に一回位の入れ替わりのお説教を拝聴できますが、交通に時間もかかり、さほど必要とは思わず、お互い教区報を拝読すれば良いとも。(60代 大阪)

根本的な教役者不足の解決にはならない。(60代 京都)  
聖職の方たちの協働は意味があると思うが一信徒にはわからない。ただ、信徒の集い、婦人大会などは当分、京都は京都、大阪は大阪で今まで通りしたほうが良いと思う。(60代 京都)

### 4. どちらかというの意味はない 5. やはり意味はない

京都教区は広すぎるので足は向かない。(40代 大阪)  
合併すれば不要。弱気な言葉(協働)よりも、前進あるのみ。(60代 大阪)

協働は小グループのほうが効果が多い。合同・合併しても教役者不足は発生してくる。先生(教役者)が動き回る仕事が増え、集中できない。(70代 大阪)

教区として協働するなら、もっと小さい教区と。地理的に近いだけでは。(80代 京都)

今のままでよい。(40代 京都)



## Q&A

アンケートの中で頂いた様々な質問の中で、当委員会として答えられるものを掲載しております。

**Q**なぜ合併が必要なのですか？

**A** 両教区間には教役者給与や勤務地の広がり、チャーチマンシップの違い等課題はありますが、多様性を受け入れることで礼拝・宣教・牧会における発想と展開、教区組織体制や人事配置など多くの面で新たな可能性を期待できます。

**Q**合併しなくてもよいのではないですか？

**A** 両教区の体力は落ちてきており、共に歩むことも困難になる前に合併するのがよいと思います。

**Q**今まで通りでよいのではないですか？

**A** 高齢化や人口減少、宗教離れの現況の中で、教役者数や信徒数を確保するためにはかなりのエネルギーを要すると思われます。今のままだと近い将来教区として成り立たなくなる可能性が出て来るかもしれません。

**Q**メリットは何ですか？

**A** ①諸委員会の合同で効率的な運営が出来ます。②教区を越えた教会間の共同が柔軟に行え、地域宣教を促進できます。③現在よりも適正な人事配置が可能となります。④当面の急激な教役者減への緩和策となります。⑤主教の人件費が1名分削減出来ます。

**Q**合併に要する負担が大きいのではないですか？

**A** 一時的な負担は発生しますが、中長期的には利点が大きくなります。

**Q**組織が大きくなって、統制がとれなくなるのではないですか？

**A** 運営方法を適切に検討することで対応できると考えます。

**Q**教区財政、教役者の給与体系等が違うので、調整が難しいのではないですか？

**A** 確かに困難な問題ですが、解決できない問題では



ありません。

**Q** 地理的な範囲が広くなりすぎるのではないですか？

**A** 広くはなりますが、いろいろな場所での会議や集会を実施することを検討できます。また、教会間交流の幅も広がります。

**Q** 移動の費用が増えるのではないですか？

**A** 場所によっては増えることもありますが、逆に減るところもあり、全体的に見れば減ると予想されます。

**Q** 風土、土地柄、礼拝の雰囲気や教役者の学んできた体制が違いすぎるのではないですか？

**A** お互いのいろいろな違いを受け止め、様々な個性を受け入れ、それぞれの良い所を生かし合うことで豊かになり、活性化につながると思います。多様性の一致が聖公会の教理です。

**Q** 教会運営や宣教姿勢が違うのではないですか？

**A** 教区間での違いもあるかもしれませんが、教会間でもかなり違いがあり、今までその違いは大切にされてきたと思いますので、合併してもそれぞれの違いは尊重していけるとと思います。

**Q** 合併で単純に財政面、人的面で半分にならないのではないですか？

**A** 単純に半分にはなりません、現在よりは効率化が図れます。

**Q** 人事配置の適材適所につながらないのではないですか？

**A** 教員免許取得者の配置、教役者の年齢、家庭状況等への配慮等が行いやすくなります。

**Q** 各教区内での教会の再編を先にすべきではないですか？

**A** 確かに重要な問題ですが、教区合併の問題とは別の課題と考えられますので、別途検討するべきでしょう。

**Q** 各教区内での諸問題解決が先ではないですか？

**A** 多くの問題がありますが、合併もひとつの課題として進めるべきと考えます。その中で諸問題を解決に導く可能性もあるかもしれません。

**Q** 教役者の不足についても、まず教区内で努力すべきではないですか？

**A** 合併により、当面の危機が回避できますので、合併後に全体で努力すべきでしょう。

**Q** なぜ大阪と京都なのですか？日本聖公会全体で考えるべきなのではないでしょうか？

**A** 大阪と京都は歴史的に元々一つの地方部としてやっけていて、地理的にも非常に近いです。また、すでにかんりの協働を行っており、11教区の中でも最も合併しやすい環境にあります。日本聖公会全体を見直す流れの中で大阪・京都の合併はそのきっかけとなります。

**Q** 協働の必要性はわかりますが、合併までしなくてもよいのではないですか？

**A** 協働の意味はありますが、逆に諸委員会の仕事量が増えるのみで、利点はあまりないと考えます。

**Q** 主教一人では巡回が減るのではないのでしょうか？

**A** 補佐主教を置くことでカバーすることはできます。

**Q** 合併したら信徒にどのような影響がありますか？

**A** 教会生活そのものにはあまり大きな変化はありませんが、教役者も含むより多くの人と知り合ったり、より広い範囲での教会間交流の機会も増え、元氣をもらえます。

---

## OK委員会ニュースレター

### 大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会

委員：(大阪教区) 司祭・岩城聡、執事・古澤秀利、太田幸彦(聖ルシヤ)、鈴木光子(尼崎聖ステパノ)、辻彩乃(川口基督)  
(京都教区) 司祭・池本則子、執事・出口崇、北野克治(金沢聖ヨハネ)、山本友理(八木基督)、尾松澄代(大津聖マリア)

発行日：2013年10月29日

日本聖公会大阪教区事務所 大阪市阿倍野区松崎町2-1-8  
日本聖公会京都教区教務所 京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴門町380